

筑波教育学研究

第 2 号

2004年3月

筑波大学教育学会

目 次

〈巻頭言〉

学校選択と自由意志 筑波大学教育学系 宮 寺 晃 夫

〈投稿論文〉

1884-5年ニューオーリンズ万国博覧会における

日本の教育の紹介 …………… 平 田 諭 治 1

「若者制度」の誕生

—地方改良運動期以降における政府青年団（体）

施策と「若者組＝教育機関」説の成立— … 宮 前 耕 史 17

「掛川農学社（舎）」の教育活動の実態 …………… 前 田 寿 紀 33

初期生活綴方教育の実際

—小砂丘忠義の文章指導を例として— …………… 飯 田 和 明 51

明治20年代における「和文」を規範的文体

とした文法教科書の検討 …………… 森 田 真 吾 71

教育機関におけるマーケティング管理の職務と組織構造

—コトラーの理論における問題点の検討— …… 佐 野 享 子 87

学校教育における GIS による学習の位置づけと課題

—台湾との比較による教育課程の観点から— … 井 田 仁 康 103

Robert H. Ennis の批判的思考理論における

能力、性向、知識の概念

—前期から後期への発展におけるそれらの関連性— … 林 佳 翰 121

〈研究ノート〉

「少人数学級」の成立

—埼玉県志木市を事例として— …………… 根津朋実 137

〈研究動向〉

教育臨床の研究動向と課題

—学校教育の問題と課題から教育を変える試み— …… 庄司一子 153

〈書評〉

小島弘道著

『21世紀の学校経営をデザインする上・下』 …… 篠原清昭 165

奥田泰弘編著

『市民・子ども・教師のための教育行政学』 …… 手打明敏 171

吉田武男・中井孝章著

『カウンセラーは学校を救えるか

—「心理主義化する学校」の病理と変革—』 …… 岩本親憲 177

井門正美著

『社会科における役割体験学習論の構想』 …………… 唐木清志 185

天野正治・村田翼夫編著

『多文化共生社会の教育』 …………… 武井敦史 191

学会彙報（平成15年4月～平成16年1月） …………… 197

『筑波教育学研究』投稿規程 …………… 198

編集後記 …………… 199

学会彙報（平成15年4月～平成16年1月）

本年度は、会員の選挙によって選出された理事10名と会長委嘱の理事10名の計20名の理事のもとで学会運営がスタートした。第1回理事会（平成15年3月7日）において、理事会を定期的に行うことは無理があるので、通常はEメール等を活用して意見の交換をおこなうという方針にもとづいて理事会運営をおこなった。

6月10日 学会会報第3号を発送

7月22日 教育学系内理事打合せ

出席理事：桑原（会長）、谷川、堀、手打

第3回学会大会を教育学系の行事であるベスタロッヂ祭とは切り離し、大塚地区で開催する方向で検討することとした。

9月12日 全理事に第3回大会の日程・会場案を提案し、了承を得る。

日程：3月20日

会場：筑波大学学校教育部

10月10日 研究部会（学校教育部）

学会大会での研究部の取り組みについて協議した。

11月17日 全理事に第3回大会の運営等について下記の提案をし、了承を得る。

1) 大会実行委員会 委員長 堀 和 郎 理事

副委員長 江口 勇 治 会員

2) 大会シンポジウム（研究部企画）

テーマ：学校教育におけるリーダー教育の可能性と課題

12月15日 学会会報第4号を発送

平成16年1月末 学会大会自由研究発表申込み11件（個人10、共同研究1）

1月末現在の会員数 300名

『筑波教育学研究』投稿規程

1. 投稿者は筑波大学教育学会会員であること。ただし依頼論文についてはこの限りではない。
2. 機関誌への投稿内容は、未刊行のものに限る。
3. 論文の投稿は、原則として、ワードプロセッサを使用し、横書き、A4版用紙1頁あたり40字×30行で作成し、注および引用文献を含めて16,000字（400字詰め原稿用紙40枚相当）程度とする。
4. 原稿の締め切りは9月末日とする。
5. 論文には英文タイトルを付記するとともに、邦文による400字程度のサマリーを付す。
6. 投稿にあたっては、原稿3部、およびMS-DOSテキストファイルに変換したフロッピー1部を送付するものとする。原稿およびフロッピーは原則として返還しない。
7. 研究論文とは別に、研究ノートの投稿も受け付ける。その際、規程3-6項に準拠する。
8. 図版等で特定の費用を要する場合、執筆者に負担させることがある。
9. 原稿は、氏名（ふりがな、および英文表記）、所属（ふりがな、および英文表記）、自宅住所（郵便番号、電話番号）、利用可能な場合、ファックス番号、メールアドレスを付記して、下記に送付するものとする。

記

〒305-8572

茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学教育学系教育哲学分野（宮寺晃夫研究室）内

筑波大学教育学会編集委員会

編集後記

『筑波教育学研究』第2号をお届けします。

投稿論文は11編（研究ノート1編を含む）で、掲載されたのは9編です。依頼した書評論文も5編を掲載することができました。

創刊号に続く第2号は、本学会誌の特徴や論文の質といった点で、今後の方向性を大きく左右することになると考えられます。装丁一つをとっても、これを変えるか継続するかで第3号以降のかたちが決定的となります。そこで、編集委員会としては、特に論文の査読に当たって、こうした今後のことも含めて採否の基準となる「論文の質」の議論を慎重に行いました。幸い、創刊号の6編を上回る数の論文を採択でき、書評論文も2編から5編に倍増しての掲載となりました。紙面としては充実したものになったと安堵しております。これも偏に、論考をお寄せいただいた方々や編集にご協力いただいた方々のお陰によるものです。お礼を申し上げます。

本号の内容が会員の方々の今後の研究活動の刺激となって、これまでも増して多くの論考が投稿されることを期待しております。

(塚田泰彦)

筑波大学教育学会編集委員会

編集委員会委員長

宮寺 晃夫 (筑波大学)
(amiyade@human.tsukuba.ac.jp)

編集委員会

飯田 浩之 (筑波大学)
大坂 治 (北海道教育大学)
大崎 功雄 (北海道教育大学)
小島 弘道 (筑波大学)
庄司 一子 (筑波大学)
助川 晃洋 (宮崎大学)
塚田 泰彦 (筑波大学)
鶴岡 義彦 (千葉大学)
野島 正也 (文教大学)

編集幹事

平井 悠介 (筑波大学大学院)
(youhirai@human.tsukuba.ac.jp)

筑波教育学研究 第2号

2004年3月20日 発行

編集・発行 筑波大学教育学会
〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1
印刷 株式会社いなもと印刷
電話 029(826)1221
